

【特別寄稿】

## ブエノス・アイレス街歩き

この街をもっと見てみよう！

林 正明

### (4) パレルモ (一)

パレルモはブエノスで最も面積が広く人口も多いバリオで、渋谷区の面積 15.11 平方キロ人口 23 万人に対し、面積 15.9 平方キロ人口 22.5 万人で、極めて似通った規模の街といえます。

パレルモには、通称アエロパルケと呼ばれるホルヘニューベリ空港、競馬場、ポロ競技場、植物園、パレルモの森と呼ばれる大公園、市民スポーツセンター、市営ゴルフ場、市営プール、騎馬警察学校、博覧会場、ラプラタ川の水を浄化し市の上水の源泉を作る浄水場などがあります。更に、軍関係では陸軍歩兵第一連隊、同騎馬榴弾兵連隊、陸軍地理局、陸軍病院、三軍共同高等戦術学校、空軍通信下士官学校などなど沢山の施設があります。

さて、このパレルモですが(異論は有ると思われませんが)、東から西に向かい夫々特徴のある三つの地域に分ける事が出来ます。

- a) ラプラタ川の河畔よりリベルタドール大通までの間、パレルモ公園が含まれる広大な地域
- b) リベルタドール大通りからサンタフェとコルドバ両大通りまで
- c) そしてこの両大通りからコルドバ大通りまで

ラプラタ川からリベルタドールまでの地域(因みに南北の境涯はタグレ通りとアルシーナ通り)の中心となるのは、約八十ヘクタールの大緑地を構成するパレルモ公園と言えます。実際には色々な公園や緑地を総称してパレルモ公園となっているのですが、煩雑を避ける為この名称で統一しました。この公園の正式名称は「二月三日公園」で、十九世紀半ば「アルゼンチン連合」の独裁的な統領ローサス将軍が、カセーロスの戦いで、ウルキーサ将軍が率いる連邦混成軍に敗退した日を記念したものです。

ローサス将軍は、リベルタドールとサルミエント両大通りが交差

する地点、現在は「自由の女神（別名スペイン人のモニュメント）」が立っている付近を中心とした広大な庭園に囲まれた豪勢な邸宅に暮らしていましたがカセーロスの敗戦で失脚、英国へ亡命し彼の地で亡くなりました。その後、邸宅は徹底的に破壊され、跡地に陸軍士官学校と海軍兵学校が建てられましたが短期間で移転、その後「二月三日公園」となったものです。長い間ローサス将軍の遺骨の帰国は許されていませんでしたが、メネム大統領時代に同将軍に対する評価に変化が現れ遺骨の帰国が許されると同時に、米国大使公邸の横にあるシーベル広場に銅像が建立されました。旧動物園のイタリア広場に面した石造の門は、ローサス庭園の入り口にあった門のレプリカだそうです。

「自由の女神（別名スペイン人のモニュメント）」は、「五月革命」百周年記念にスペインより寄贈されたもので、噴水に囲まれた台座の上の自由の女神立像を中心に、「国民大憲章とアルゼンチンの四地方」と名付けられたレリーフや銅像群が台座を取り巻いています。

この銅像群はスペインで製作され、分解して数回に分け船で運ばれてきたものですが、その一隻がブラジル沖で難破してしまった為、スペイン政府は水没してしまった部分のレプリカを再送した経緯があります。その後千九百九十年にブラジルの潜水夫が沈没船を発見し銅像群を引き上げましたが、アルゼンチン政府はブラジルに寄贈し、現在はサンパウロの美術館に展示されているとのこと。

因みに「アルゼンチンの四地方」とは、ラプラタ川流域、アンデス山岳地帯、パンパ草原地帯、チャコ地域を示しています。

「自由の女神」立像の北西は、その一角に日本庭園がある広い公園となっていますが、リベルタドールとサルミエント両大通りの交差点（女神像から道路を隔てた）付近に、「考える人」「地獄の門」「接吻」等の作品で有名なフランスのロダンに依頼して製作したサルミエントの立像があります。サルミエント(D. F. Sarmiento, 1811～1888)は軍人、教職員、歴史学者、作家、新聞記者などを経て大統領となった多彩な人物でした。この国の発展は国民の教育レベル向上、特に基礎教育が肝要であるとし、師範学校など数々の教育機関を設立し、教育界の恩人として亡くなった九月十一日は「教職員の日(Dia de Maestro)」に制定されています。



ちょっと珍しい「赤頭巾ちゃん」の銅像

同じ公園のサルミエント大通りに沿った一角に、千九百三十七年にフランスで製作された、おばあさんへのお土産が沢山詰まったバスケットを手に持った少女とそれを窺っている狼が表された、恐らく世界で唯一と思われえる「赤頭巾ちゃんの像」があります。

この銅像から程近く、サルミエント大通りとアルコルタ大通りが交差する所に、アルゼンチンの天文学の発展に寄与した米国人グルド (B.A.Gould) の名を冠した公園があり、中央にプラネタリウムの建物が聳えています。この建物は赤道に沿って大きな環を持つ土星、或いは宇宙船をイメージしたものと言われ、その極めて特異な形状が人目を引いています。

プラネタリウムの入口近くに、鉄柵に囲まれた台座にステンレス製の日時計があり、消耗が激しくて判読困難ですが「日本の **Profesor Takutaro Yahashi** より寄贈された」と書かれたプレートがありますが、この「ヤハシ教授」とは如何なる人物でどの様な経緯で日時計が寄贈されたのか、筆者は全く分かりません。ご存知の方が居られるならご教授頂ければ幸甚です。

この公園のサルミエント大通りを隔てた反対側の角に、昔は見事な藤の花が咲いていたと言われる、左右対称に半月形に円柱が並んだ小さな回廊のような藤棚がありますが、昔この場所には「ハンセンの店」と呼ばれ、昼は子供連れ向けの遊び場を設けたカフェ、夜はデイナーショー等などが行われた大人向けのレストランがあったとのこと。この店は千九百十二年に閉鎖されましたが、夜のショーでは初期のタンゴが演奏され、中間層の市民がタンゴに親しむ契機となったと言われ(当時の市条例で踊ることは禁じられていました)、タンゴ史に名前を残す伝説的な店とされています。

プラネタリウムの入り口付近、鉄柵に囲まれ大理石まがいの台座に据え付けられている。

「Profesor Yahashi」  
寄贈の日時計



注記：

本稿では便宜上以下の西文和訳を採用しています。

Avenida	大通り
Calle	通り
Parque	公園
Plaza	広場